

奇遇

日本を鎖国から解放した立役者
老中阿部正弘とジョン万次郎の
後裔が102年後鎌倉高校で再会

昨2007年9月、高校10回生の中濱武彦氏が『ファースト・ジャパニーズ/ジョン万次郎』と題する書物を講談社から上梓された。

土佐の漁師の青年が、嵐に遭い孤島に流れ着いて米国の捕鯨船に救助されて渡米し、彼の地で教育を受けて帰国する。これまでも何冊もの書物に書かれ、教科書にも掲載される有名なストーリーだが、中濱氏の今回の著作は新たな綿密な調査に基づき、極めて読みやすくしかも格調高い文章で綴られた好著である。

中濱氏は、その姓からも想像できるように、ジョン万次郎こと中濱萬次郎の曾孫にあたる。



中濱武彦君

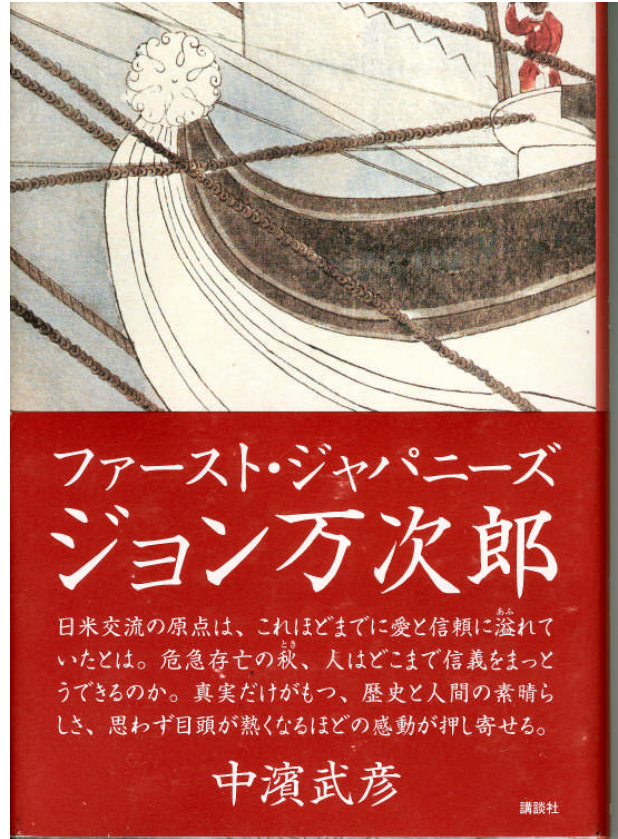


阿部正道先生

卒業記念アルバムより

さて、この中濱武彦氏が鎌倉高校生だったのは1956年4月から1959年3月までの3年間だが、その当時鎌倉高校の社会科には阿部正道先生が勤務しておられた。そしてこの阿部正道先生こそ、国禁を犯して外国に渡り帰国した一介の漁師の青年の価値を見だし、幕客に取り立てた筆頭老中、阿部正弘の5代目にあたる。

幕末期の備後福山藩主阿部家の場合、甥が叔父の養子になったり、広島藩から養子を迎えたりと複雑な事情が重なっている。要するに老中阿部正弘は阿部家7代目であり、阿部正道先生は阿部家12代目で、今日も文京区西片の旧福山藩江戸上屋敷跡にお住まいである。



万次郎は、捕鯨船乗組員として米国で活動するうちに、米国の日本に対する動きを察知し、ジャパニーズとしての自覚を持って危険を冒して帰国する。それを読み解いた阿部老中は、日本外交の重要なポストを担わすのである。

この慧眼を持った二人の出会いがなかったなら、日本の歴史は違ったものになったであろう。



中濱萬次郎 ↑



阿部正弘 →